



2002年の住宅着工、1.9%減の115万戸。 03年度の予測は112万5千戸と、さらに厳しく!

国土交通省の新設住宅着工統計によると、2002年1～12月の新設住宅の総戸数は115万1千戸（前年比1.9%減）で2年連続の減少となりました。持家は36万8千戸（同4.9%減）で3年連続減少、分譲住宅は32万4千戸（同4.4%減）で2年連続減少。一方、貸家は資産運用目的のアパート経営投資が増えたことなどにより、2年連続増加の45万戸（同2.7%増）となっています。

今後の見通しも依然厳しく、民間金融機関及びシンクタンク各社の予測を平均すると、03年度112万5千戸となっています。これに対して住宅メーカーが参加する住団連の調査では、03年度111万6千戸とさらに厳しく、業界の深刻な状況がうかがえます。生前贈与の非課税枠拡大効果でさらに約10万戸の増加が期待できるとの見方もありますが、縮小する市場の中で競争がますます激化することは間違いありません。

2002年(1月～12月)新設住宅着工		前年比 伸び率(%)
<利用関係別>	戸数(戸)	
新設住宅 計	1,151,016	▲1.9
内	持ち家	▲4.9
	貸家	2.7
	給与住宅	▲7.8
訳	分譲住宅 (うちマンション)	▲4.4 (▲3.3)

(国土交通省「2002年新設住宅着工統計」)

(単位:万戸)

新設住宅着工予測	'03年度予測
みずほ総合研究所	114.2(▲1.8)
UFJ総合研究所	110.7(▲2.3)
りそなグループ	114.1(▲0.7)
富国生命	108.4
住友信託銀行	111.5
信金中央金庫総合研究所	115
三井トラスト・ホールディングス	114
農林中金総合研究所	112
平均	112.5
(社)住団生産団体連絡会(住団連)	111.6(▲1.2)

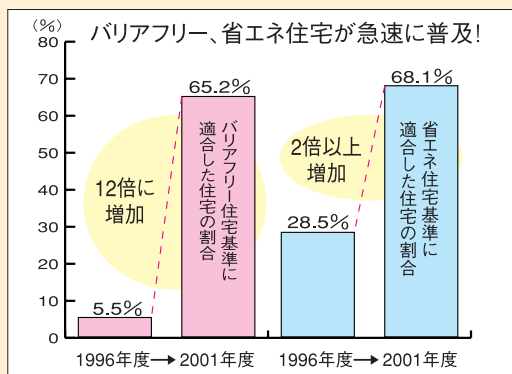
(ハウジング・トリビューン vol.236)

個人住宅の平均建築費は2,412万円。 6割超がバリアフリー、省エネ住宅。

住宅金融公庫が01年度中に現場審査した全個人住宅の平均建築費は2,412万円と4年連続減少。住宅規模も、敷地面積平均264.1㎡、住宅面積平均138.5㎡で、縮小傾向が続いています。

一方、バリアフリー基準適合住宅は65.2%、省エネ基準適合住宅も68.1%と毎年連続で大幅に伸びており、住宅の広さよりも性能や機能といった「質重視」の姿勢がうかがえます。

(参考:国民金融公庫「01年度個人住宅規模規格調査」)



くうきのはなし

「おいしい・快適な空気」を得る 一番人気は、空気清浄機!

「おいしい・快適な空気」を得るためにお金をかけたことがあるかという問いに、半数近い46%が「ある」と答え、空気にお金がかかる時代が証明された結果となりました。年代別には年代が高いほど多く、地域的には東京(51%)・南関東(50%)など都市に住む人が多いというのうなずけます。その手段は空気清浄機など空調関連機器系の購入がダントツで7割超。次いで山歩き・登山、旅行などとなっています。

詳しくはダイキンホームページをご覧ください。
<http://www.daikin.co.jp/press/kuuki.html>

出典:ダイキン工業「第2回空気感調査」(2002年10月～11月)

「おいしい・快適な空気」を得るためにしたこと

